

亜細亜大学
令和6年度「MDASHリテラシー・応用基礎プログラム」
点検・評価報告書

亜細亜大学 内部質保証評価委員会

令和7年2月12日

令和6年度「MDASHリテラシー・応用基礎プログラム」点検・評価報告書

亜細亜大学内部質保証評価委員会
委員長（学長） 永綱 憲悟

1. 点検・評価の実施

亜細亜大学データサイエンス教育委員会が実施主体となり、令和6年度の亜細亜大学MDASHリテラシー・応用基礎プログラムに関連する授業科目の自己点検・評価を行った。

2. 点検・評価の対象

令和6年度の授業科目を点検・評価の対象とした。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度実施要綱細目」（令和3年2月24日制定）に基づき、亜細亜大学MDASHリテラシー・応用基礎プログラムの開講した授業科目の「履修・修得状況」、「学修成果」、「学生アンケートに基づく学生の内容の理解度」、「他の学生への推奨度」、「全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況」を対象とした。

3. 評価基準について

評価基準（レベル）は、以下の3段階とした。

【評価レベル】

- A 『優れた点』があり、十分に行われている。
- B 概ね行われており、相応である。
- C 改善の必要がある。

4. 内部質保証評価委員会の評価結果

【評価レベル】

B

概ね行われており、相応であると判断する。

以上

令和 7 年 1 月 29 日作成

令和 6 年度「亜細亜大学 MDASH リテラシー・応用基礎プログラム」点検・評価報告書

亜細亜大学データサイエンス教育委員会

1. 点検・評価の実施

亜細亜大学データサイエンス教育委員会が実施主体となり、令和 6 年度の亜細亜大学 MDASH リテラシー・応用基礎プログラムに関連する授業科目の自己点検・評価を行った。

2. 点検・評価の対象

令和 6 年度の授業科目を点検・評価の対象とした。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度実施要綱細目」（令和 3 年 2 月 24 日制定）に基づき、亜細亜大学 MDASH リテラシー・応用基礎プログラムの開講した授業科目の「履修・修得状況」、「学修成果」、「学生アンケートに基づく学生の内容の理解度」、「他の学生への推奨度」、「全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況」を対象とした。

3. 評価結果について

以下の評価レベルで判定した。

【評価レベル】

- A 『優れた点』があり、十分に行われている。
- B 概ね行われており、相応である。
- C 改善の必要がある。

4. 亜細亜大学データサイエンス教育委員会による自己点検・評価結果

(1) 授業科目の点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
教育プログラムのディプロマポリシー（DP）を定め、これに沿って教育プログラムの科目を配置し、カリキュラムを構築しているか。	亜細亜大学 MDASH リテラシー・応用基礎プログラム（以下「教育プログラム」という）のディプロマポリシー（DP）として「修了証授与方針」を定め、教育プログラムのウェブページで学内及び社会に対して公開している。3 項目からなる DP をさらに 8 項目の DP 項目に細分化し、これらをカバーするように教育プログラム科目を配置し、カリキュラムを構築している。（参考資料「修了証授与方針」）	教育プログラムのディプロマポリシー（DP）を定め、インターネットを通じて公開し、これに沿って教育プログラムのカリキュラムを構築しており、基準を満たしている。 (評価レベル B)

教育プログラムのカリキュラムマップを作成し、学生・教員が学修効果・教育効果を確認できるようにしているか。	前項のディプロマポリシー（DP）を細分化した 8 項目の DP 項目と、教育プログラム科目の対応関係をカリキュラムマップとして整理し、教育プログラムのウェブページで学内及び社会に対して公開している。学生はこれを参照して各自の学修の進捗を把握することができ、また教員はこれを教育効果の把握とカリキュラム改善に活用することができるようにしている。また、カリキュラムマップに基づき学修成果を可視化するシステムの検討を進めた。 (参考資料「カリキュラムマップ」)	教育プログラムのディプロマポリシーと教育プログラム科目の対応をカリキュラムマップとして整理し、インターネットを通じて公開し、学生及び教員が活用できるようにしており、基準を満たしている。 (評価レベル A)
教育プログラム科目の「学修目標」、「成績評価方法等」を各科目のシラバスに記載しているか。	本学の全科目でシラバスに「学修目標」及び「成績評価方法等」を記載することが義務付けられており、教育プログラム科目のシラバスにおいても記載を行っている。また記載内容については、科目担当者のみならず第三者による点検・承認を行なう制度が導入されている。	教育プログラムの全科目のシラバスで「学修目標」及び「成績評価方法等」を記載しており、基準を満たしている。(評価レベル A)
教育プログラム科目のシラバスであらかじめ開示した成績評価基準に基づき成績評価を行っているか。	本学の全科目でシラバスの「成績評価方法等」の欄に、平常点、授業回毎の小テスト、授業回毎の課題、最終課題、期末試験等の項目別に成績評価への寄与をパーセント単位で記載することが義務付けられており、教育プログラム科目のシラバスにおいても記載を行っている。また教育プログラムの各科目でこれにしたがった成績評価を実施している。一方、成績評価について履修学生から質疑する制度が設けられており、科目担当教員は質疑への回答が義務付けられている。	教育プログラムの全科目のシラバスで「成績評価基準等」を記載し、これにしたがって成績評価を実施しており、基準を満たしている。 (評価レベル A)
学修成果の評価に用いた課題・問題等の文書は学生・教員が閲覧可能な状態で保存されているか。	教育プログラム科目のほぼすべてで LMS（manaba, Google Classroom）を活用して授業を行っており、これらの科目では課題の出題・提出なども LMS 上で行っている。これらの課題や問題文などは、課題の提出後も学生・教員が閲覧可能な状態で保存されている。	教育プログラムのほぼすべての科目で LMS（manaba, Google Classroom）を使用し、課題・問題文等が保存されており基準を満たしている。 (評価レベル B)

学修成果の評価に用いた課題の答案等はできるだけ返却しているか。	教育プログラム科目のほぼすべてで LMS（manaba, Google Classroom）を活用して授業を行っており、これらの内の多くの科目では課題の採点も LMS 上で行っている。これらの課題の答案は、採点後に採点結果とともに学生が閲覧可能な状態となり、事後学修に利用されている。	教育プログラムのほぼすべての科目で LMS（manaba, Google Classroom）を使用し、多くの科目では答案が学生に返却されており基準を満たしている。 (評価レベル B)
---------------------------------	--	---

(2) 教育プログラムの点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
教育プログラムの履修・修得状況・学修成果を確認できているか。	令和 6 年度は、MDASH 応用基礎プログラムに 4 年生 151 名、3 年生 86 名、2 年生 188 名、1 年生 112 名が登録している。また、令和 4 年度には 27 名、令和 5 年度は 19 名の修了者が出た。 一方 MDASH リテラシープログラムについては、令和 6 年度春学期に 4 学年合計で 308 名が登録し、161 名が修了した。令和 6 年度秋学期には、対面式クラスに加えオンデマンドクラスが開講された事もあり、4 学年合計で 839 名が登録し、履修した。	教育プログラムの履修・習得状況を確認できしており、また教育プログラムの修了条件を満たす修了者が出ており基準を満たしている。 (評価レベル A)
全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画を実施し、進捗状況を確認できているか。	5 ヶ年の履修者数向上計画を策定した他、「亜細亜大学資格取得報奨」を制定し、これまでと比較してよりデータサイエンス関連資格取得者に対して報奨金を授与するなどの施策を実施している。 (参考資料「資格取得報奨基準」)	5 ヶ年の履修者数向上計画を示し、これを実現するための施策も実施しており、基準を満たしている。 (評価レベル B)
学生アンケートに基づく学生の理解度・他の学生への推奨度を確認できているか。	令和 6 年度前期および後期の学生アンケート結果から、学生の理解度を集計した。この結果、教育プログラムを構成する 13 科目中 11 科目で、授業の到達目標を達成できたかを問う項目に対して前期 52.3%・後期 59.4%の学生が肯定的な回答をしていることが明らかになった。また、教育プログラムの「他の学生への推奨度」を間接的に問うため、新たな興味・関心が高まったかを問う項目と授業の満足度を問う項	全学対象のアンケートの結果から、教育プログラム科目の理解度を確認している。また教育プログラム履修者を対象とするアンケートから「他の学生への推奨度」を間接的に確認しており基準を満たしている。 (評価レベル B)

	目のデータから、何れの項目についても前期 60%強・後期 70%弱を超える学生が肯定的な回答をしていることが明らかになった。この結果から、他の学生への推奨度は十分に高いものと推測される。	
教育プログラムが示すモデルカリキュラムとの対応を確認できているか。	教育プログラムを構成する 14 科目の令和 6 年度シラバスを確認し、本学学生が広く興味を持つ内容であるとともに、モデルカリキュラムの「導入・基礎・心得」の 5 項目に加え、「選択」の内容もカバーしていることを確認した。	教育プログラムを構成する科目のシラバスとモデルカリキュラムの対応を確認し、「導入・基礎・心得」に加え、「選択」の内容を含むことも確認しており、十分に基準を満たしている。 (評価レベル A)
教育プログラム修了者の進路・活躍状況を確認できているか。	令和 5 年度の修了者 19 名について進路の調査を行なった。この結果、教育プログラム修了者が就職する業界は、1.情報通信業と製造業が同率で 21.4%、次いでサービス業と卸・小売業が同率で 14.2%となっており、本学全体の令和 5 年度のトップ 3 である 1.サービス業 28.4%、2.卸・小売業 24.5%、情報通信業 11.4%とは異なる傾向があることが明らかになった。	教育プログラム 3 年目の修了者の就職先について調査を行い、前年度に引き続いて本学全体とは異なる傾向のあることが明らかであり、十分に基準を満たしている。 (評価レベル A)
教育プログラムの点検・評価結果をインターネット等を通じて公開しているか。	教育プログラムの「点検・評価報告書」を、以下の教育プログラムのウェブページで公開している。 https://www.asia-u.ac.jp/academics/learn/minor/	教育プログラムの点検・評価を実施し、その結果を教育プログラムのウェブページで公開しており、基準を満たしている。 (評価レベル B)